

第13回 グローバル人材のための国際情勢講座

アフガニスタンの 戦後復興と平和

「アフガン・ピースベアー」からみるアフガニスタンの「今」

講師

安井 浩美

(ジャーナリスト、シルクロード バーミヤン ハンディクラフト アフガニスタン代表)

名古屋大学・博士課程教育リーディングプログラム「PhD プロフェッショナル登龍門」では、東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社のご支援のもと、市民・学生向けに国際情勢に関する深い理解と正確な知識をより分かりやすく提供する機会として、国内外の著名な専門家を招聘して連続講義「グローバル人材のための国際情勢講座を開講しております。

昨今、世界中がテロの脅威にさらされ、シリアなどの中東地域では、今なお紛争が続いています。今回の講演では、なぜ紛争は起こるのか、平和とは何か、世界平和のために私たちができることは何かを考える機会として、1990年代からアフガニスタンの取材を続けるジャーナリストであり、今なお情勢の安定しないアフガニスタンにおいて、ホテルや食堂、女性の生活支援のためのハンディクラフトの会社を立ち上げ、様々な形で国の発展・安定に貢献している安井浩美氏に、最新のアフガニスタン情勢と紛争後国での起業について、現地の写真を交えながら、ご講演頂きます。

講師 安井浩美氏の略歴



1963年、大阪で生まれる。大学卒業後、アパレル会社勤務ののち、子供のころからの夢だったシルクロード縦断の旅に1年間でかける。1993年よりフリーランスの写真家として活動を始める。最初の取材地は、アフガニスタンとイラク。以降、パレスチナ、スリランカ、ヨルダン、モンゴル、フィリピンなどを取材。2001年の米国多発同時テロの2週間後には、ふたたびアフガニスタンに戻り、現職である共同通信の仲間とともにアフガン取材を続ける。現在は、共同通信カブール支局の通信員としてアフガニスタンのニュースを現場から発信している。現在、最も滞在期間の長い外国人ジャーナリストの一人。報道の仕事とともに、2002年から2008年まで避難民キャンプに小学校を作り、長い避難民生活で住民登録がないために学校にいけない避難民の子供たちに勉強の場を提供。皆が学校に行けるようになってからは、貧困支援の一環で手工芸品の会社を立ち上げ、日本食のレストランもアフガン人の雇用促進のためにオープンさせた。アフガニスタンに平和が来る日を願う日本人。著書に「私の大好きな国 アフガニスタン」(あかね書房、2005)。

名古屋大学

野依記念物質科学研究館講演室(2F)

2017
2/6月
13:30 ▶ 15:00



会場
野依記念物質科学研究館
講演室(2F)

言語

日本語

参加費用

無料

参加申込

当日、受付にて
参加登録を行います
(事前登録は不要です)

問い合わせ先

名古屋大学PhD登龍門推進室

TEL 052-789-5717

E-mail 10ryumon03@adm.nagoya-u.ac.jp

主催 名古屋大学PhDプロフェッショナル登龍門

協賛 東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社